

平成 31 年度三重県商工会議所連合会 第 1 回会頭会議を開催

～ 31.4.14 熊野倶楽部 ～



▲挨拶をする岡本会長

三重県商工会議所連合会（会長：岡本直之）は、平成 31 年 4 月 14 日（日）熊野倶楽部（熊野市）にて、県内各商工会議所会頭及び専務理事の出席をいただき、会頭会議を開催しました。

岡本会長は冒頭の挨拶の中で、三重県雇用創造懇話会での自身の発言に触れ、「外国人受け入れ制度や改正入管法の中小企業への実行性を期待し、分りやすい説明、ワンストップサービス窓口の設置をお願いした。また、商工会議所も会員の皆様へ外国人研修制度との違いや会員企業への相談が必要になると強く感じている」と述べました。

また、「新名神の県内全線開通、東海環状自動車道の一部開通による渋滞解消や経済波及効果に期待」し、近畿自動車道紀勢線（紀宝熊野道路）の事業化決定にも触れ、「引き続き道路を中心とした社会基盤整備に関する行政・関係機関への要望活動と道路開通の好機を地域活性化に繋げていきたい」と話しました。

県連事業では、「3 月に鈴木知事に同行して吉仲専務が訪台した際、台湾貿易センターの葉秘書長から三重県への訪問ミッション団を

組みたいとの発言もあり、今後、皆様の協力をお願いしたい。新元号『令和』のもと、熊野古道世界遺産登録 15 周年・ミエム開館 5 周年事業への協力、知事・中部地方整備局・リニア等の要望活動など『連携・協働による取組』を進めてまいりますので、ご協力をお願いします」と話し、最後に天皇陛下御在位三十年記念式典等への参加状況について報告しました。



▲榎本会頭（熊野）

会議では、尾鷲商工会議所の伊藤整会頭から、尾鷲火力発電所廃止後のエネルギーを核とした再生計画“おわせ S E A モデル”のグランドデザイン等について説明を受け、熊野商工会議所の榎本正一会頭から、熊野地域の産業状況、商工会議所の取り組み事例として観光誘客や熊野ブランド認定事業等について説明を受けました。

その後、郷土史家の向井弘晏氏から「熊野古道を辿る巡礼と善根宿」と題して講話を拝聴しました。

会議終了後は、会場を移して懇談会を開催し、終始和やかな雰囲気の中情報交換等を行い、大変有意義な会となりました。



▲会頭会議の様子



▲伊藤会頭（尾鷲）